

韓国岳：硫黄山の眺望

ここは、韓国岳の3合目標高およそ1,410m地点です。このあたりでは、下方の斜面に繁っていたアカマツとキリシマミズキ (*Corylopsis glabrescens*) はかなりまばらになっています。ここから北西に見える噴煙が立ち昇っている黄白色の山は、硫黄山という活動中の火山です。1768年に発生した韓国岳の山腹からの噴火によって形成された硫黄山は、霧島錦江湾国立公園内で最も新しい山です。直径100メートルの浅い火口の内部では、今も黄色い水がぶくぶくと湧き出し、噴気を上げています。ここでは1897年から1962年まで硫黄が採掘されていました。安全上の理由から現在は硫黄山に登ることは禁じられているものの、煙の上がる活動中の火山を見下ろす貴重な機会をぜひお楽しみください。

2018年の噴火以降、硫黄山とその周辺では火山ガスが噴き出す噴気孔が不可測に生じたり閉じたりしています。これにより、登山道や道路が一時的に閉鎖されることがあります。韓国岳のこの景勝スポットからは、噴煙は通常、遠くに聞こえる轟音と硫黄の匂いを伴って立ち昇る白い煙の柱のように見えます。

硫黄山の向こうの右側には甑岳があります。甑岳は、平たい山頂が甑（こしき）という米を蒸す道具に似ていることからその名がつけられました。反対側、硫黄山の左には、池巡り自然探勝路が整備されている白鳥山があります。南東には韓国岳火口の北西側を馬蹄形にえぐった爆裂火口が見えます。

ここから標高1,700mの山頂までは、南側の眺望は徐々に開けていき、大浪池、新燃岳、えびの高原が姿を現します。また、ミヤマキリシマ (*Rhododendron kiusianum*) の大群落やミヤコザサ (*Sasa nipponica*) も見られます。